

令和2年度 特色ある学校づくり推進事業報告書  
『地域との連携 Project MASANORI を通して』

あま市立正則小学校

## 1 目的

本校は、明治からの学校で、校区に福島正則公の菩提寺である菊泉院があり、日頃から地域と深いつながりをもっている。保護者には、卒業生も多く、地域の方に温かく見守られ、協力していただきながら学校教育を進めており、地域の力は、本校になくてはならないものになっている。そこで、より地域との連携を図り、地域の力を生かすことで、児童の自己肯定感を高め、児童をより健やかに育てていきたいと考えている。

また、変化の激しい現代社会を生き抜く力を児童に身につけさせることは、今日の教育の重要な課題であると考え。状況に合わせた目標をもち、前向きに考え行動するには、集団を包み込む、豊かな心の醸成が必要であると考え。

## 2 内容

### (1) 地域との連携

#### ア Project MASANORI

福島正則公のことを少しでも知って卒業していつてももらいたいと始めたこの活動も4年目となり、児童たちの中に「福島正則」が浸透してきた。

特に、6年生は、実際に狂言を体験し、狂言の指導を受け、「狂言合唱発表会」での発表を計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の予防の観点から本年度は「狂言合唱発表会」を中止、練習についても断念することになった。

そこで、本年度は、全校の児童に本物の狂言に触れてもらう機会とした。第一部では、狂言についての説明、「おそそ仁王」や「ふくろう山伏」と言った作品の説明を

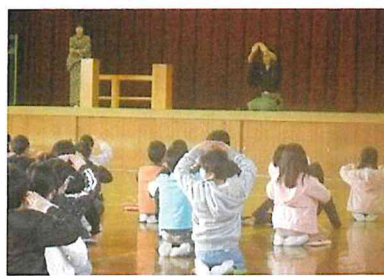


＜狂言についての講話＞



＜ふくろう山伏の鑑賞＞

「おそそ仁王」の作者である山川先生からレクチャーを受けた。第二部は、プロの狂言師による「ふくろう山伏」を鑑賞した。



＜狂言の所作の体験＞

第三部では、狂言師の方から、正座の仕方やあいさつ、作品に出てきたふくろうの鳴きまねや笑い方などを教えていただき体験した。狂言師の方の所作をまねしながら、一生懸命練習していた。6年生が作品の発表をできなかったことは残念だったが、本物に触れることで子どもたちの関心が高まる貴重な機会になったと思う。

また、1年生では『ふく王くんぬり絵』を行った。ぬり絵は、校長室前や来賓玄関に掲示し、来校者を温かく迎えている。2年生の『ふく王くんピザ』作り、6年生の『ふく王くんまんじゅう作り』は、残念ながら中止となった。『ふく王くんまんじゅう』については、講師の芳春軒店主にお願いをして作っていただいたものを、保護者にプレゼントした。



＜ふくおうまんじゅう＞

## イ 親子ふれあい学級

継続事業として、毎年6月に行っている「親子ふれあい学級」は、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止となった。次年度については、状況を見ながら、開催について考えていきたい。

## ウ 農業体験学習

継続事業として毎年、全校児童が学校近くの畑でサツマイモの植え付けと収穫を地域の農業委員さんのご指導で体験させていただいている。本年度は、全校での実施は難しく見送った。土に触れる経験が少なくなった今日、サツマイモの苗植えや収穫は、とてもよい体験になっているので、今後は、学年を減らして実施を検討している。



＜ネギの植え付け＞

3年生は、サツマイモ以外にも郷土の農作物として有名なネギ作りを、農家の方を講師に招いて植え付けと収穫を体験した。

## (2) 豊かな心の醸成と健康づくり

歌声の響く学校は、児童の心を豊かにすると考え、朝や帰りの会で歌を歌うことや朝礼の後全校合唱の練習をするなど、歌う機会を確保してきた。本年度も講師による合唱指導を予定していたが、「合唱狂言発表会」が中止になり、合唱練習も難しい状況となったので、「卒業式」に向け、6年生のみ、合唱指導を講師にお願いした。

## (3) 指導力向上

校内で「互いのよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成一議論につなげるための手立ての工夫」の研究を推進した。3年目の今年度は、道德の授業で考え議論する経験を重ねることで、互いのよさを認め合い、自らの道德性を高めていける児童を育ててきた。また、「プログラミング学習」について、塚本先生を講師に迎え、教員研修を行った。全学年1時間ずつ授業をしていただき、それを別のクラスで実践していく形で行った。実際の授業を見学・実践することで、より具体的にイメージでき、指導力の向上が見られた。他にも、2年生の児童を対象に「辞書引き学習」について、講師の先生を迎えて授業をしていただいた。学習活動が制限される中、子どもたちの語彙力が向上するなど有益な取組となっており、今後は、「国語辞典」だけでなく「漢字辞典」を使った辞書引き学習についても考えている。

## 3 評価と課題

本年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、計画していたものの中止となった行事や取組が多くあり、残念であった。Project MASANORI も、年数を重ねることで継続して受け継ぐ活動になってきた。「カリキュラムの中でどのように位置づけ、時間を確保するのか」「継続実施できる内容にしていけるか」また、「新型コロナウイルス感染予防を踏まえた行事の持ち方」などを課題と考え、この機会に今までの取組を見直し、持続可能な取組に見直す機会としていきたい。